

「困った時はお互いさま」の社会づくりに向けて

理事長 米山けい子



フードバンク山梨は未曾有のコロナ禍で、2020年度を終えることとなりました。本年度はリーマンショック以来、と言うよりそれ以上の厳しい環境下での活動となりました。新型コロナウイルス感染拡大で多くの命が失われました。亡くなられた方々に謹んで哀悼の意を表します。

社会では、コロナ禍での自粛や休業の影響で経済が悪化し、失業者や収入が減ったことにより、生活困窮する方が急増しました。

そのため、当法人に電話などで支援を求める方々が急増した事と、社会情勢を勘案し、緊急食料支援を3月から開始しました。日を迫うごとに状況は厳しさ増していき、子どものいる世帯に加えて、大学生や失業者などの生活困窮が顕在化してきました。当法人の緊急食料支援は、昨年3月から年度末までに3771件に上りました。通常の支援件数6882件を合わせると1万件を超え、昨年の2倍以上となりました。

支援活動は増える一方ボランティア参加は、新型コロナウイルス感染拡大防止で密を避けるため、減らさなければならず、職員への負担も増加しましたが、1人ひとりが最大限の能力を発揮し、急増する支援活動に取り組みました。

また、コロナ禍だからこそ、活動を応援したいという方々も急増し、運営資金となる寄付金も増加しました。

市民からの食品の寄付活動（フードドライブ）は、学校で集める「スクールフードドライブ」や社協などが呼びかけて実施して頂き、年間で63トンに上りました。この数字は、私の知る限り全国でも最も多く、市民の社会貢献度の高さを表す量となり、山梨として誇れる活動となりました。

昨年11月に浮上した倉庫移転問題は、活動の先行きに大きな不安をもたらしました。ニュースなどで報道され、活動を心配し応援して下さる方からの情報提供の多さに、あらためてこの活動の重要性を痛感しました。情報提供頂いた皆様に心より感謝申し上げます。幸い4月より南アルプス市小笠原に新たな仮拠点が見つかり、これまで通り活動に支障なく継続できることになりました。倉庫の移転問題をきっかけに、山梨におけるフードバンク活動の定着には拠点となる倉庫建設が必要であると考え、「新山梨フードバンクセンター」の建設計画を推進する事になりました。

長引くコロナ禍で失業や減収で誰もが陥るかもしれない貧困に、「困った時はお互いさま」と声を掛け合える社会づくりに向けて、皆様と共に力を尽くしていく所存です。本年度もよろしくお力添え頂きますようお願い申し上げます。

第1号議案 2020年度 事業活動報告・活動決算報告・監査報告について

I 新型コロナウイルス感染症対策 緊急食料支援事業

新型コロナウイルス感染症により、休校や仕事の減少など生活に様々な影響を受けた方々に対し「コロナ禍緊急食料支援」を昨年3月から開始し、今年度は延べ3,771世帯を支援しました。7月から新たに山梨大学・都留文科大学・ユニタス日本語学校と連携協定書を締結し、延べ677人を支援しました。年末からは失業者や労働時間の減少した412世帯を対象に「つながるスマイルプロジェクト」を実施しドライブスルー方式で食品・日用品を直接配布しました。

1 緊急食料支援実績

回数	対象	実施日	世帯数	備考
第1弾 (宅配)	就学援助 世帯	3月9日～3月13日	709	休校措置で学校給食がなくなった子どもたちと仕事を休まざるを得ず、収入減となった就学援助を受けている世帯
第2弾 (手渡し)	就学援助 世帯	3月24日～3月25日	56	
第3弾 (宅配)	就学援助 世帯	4月20日～4月27日	752	
第4弾 (手渡し)	大学生	7月14日	82	山梨大学独自の奨学金申請者。山梨県弁護士会の法律相談を利用した学生
第5弾 (手渡し)	留学生	10月7日	181	ユニタス日本語学校の留学生
第6弾 (手渡し)	大学生	10月19日	39	都留文科大学独自の奨学金を申請した学生
第7弾 (宅配)	大学生	12月3日	94	再度宅配で追加支援
第8弾 (宅配)	失業者	12月28日	109	第1回つながるスマイルプロジェクト
第9弾 (手渡し)	留学生	1月13日	281	ユニタス日本語学校に食品を提供し教師が留学生に配布
第10弾 (宅配)	就学援助 世帯	2月15日	850	追加の緊急支援として宅配で食品支援

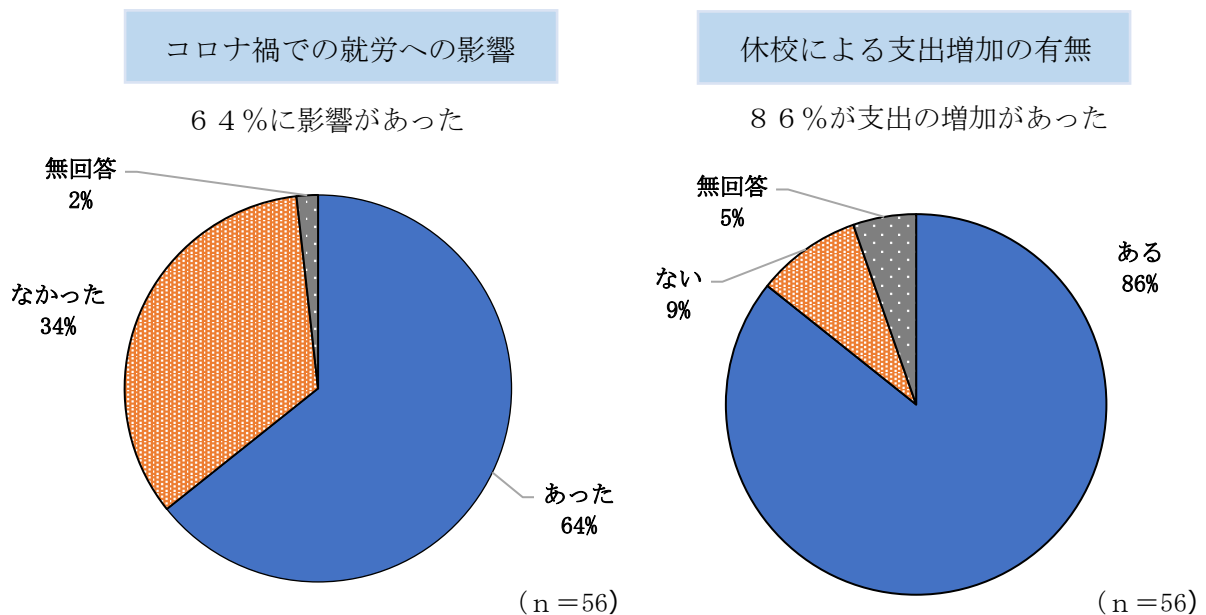
回数	対象	実施日	世帯数	備考
第11弾 (手渡し)	失業者	2月19日・20日	108	第2回つながるスマイルプロジェクト。ドライブスルー方式。協力団体「ふじざくら」と連携。
第12弾 (手渡し)	失業者	3月5日	75	第3回つながるスマイルプロジェクト。ドライブスルー方式。
第13弾 (手渡し)	失業者	3月20日	120	第4回つながるスマイルプロジェクト。ドライブスルー方式。協力団体「ふじざくら」と連携。

(1) 就学援助世帯への緊急食料支援

新型コロナウイルスの影響による休校措置で学校給食がなくなった子どもと、仕事を休まざるを得ず、収入減となった就学援助を受けている世帯に計4回、延べ1,687回の緊急食料支援を実施しました。

(2) アンケート調査の実施

3月には就学援助世帯を対象に「新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校を受け、緊急食料支援を実施した世帯へのアンケート調査」を実施しました。コロナ禍で就労に影響があったと答えた世帯は64%で、そのうちの58%が労働時間が減り、減収しており、25%が子どもの為に休職していると答えました。休校に伴う支出増加の有無について、86%が「ある」と回答し、支出増加の理由としては、「食費の増加」が90%と最も多かったことから、食料支援は支出の増加を抑制するための有効な支援であると考えられます。



(3) 大学生・留学生への緊急食料支援

山梨大学・都留文科大学・ユニタス日本語学校と連携協定書を締結し、アルバイト収入が減り、食費を節約している大学生・留学生延べ667人を支援しました。応援する気持ちを直接伝えるため、一般の方々から応援メッセージを募集し、絵手紙等を食品と共にお届けしました。



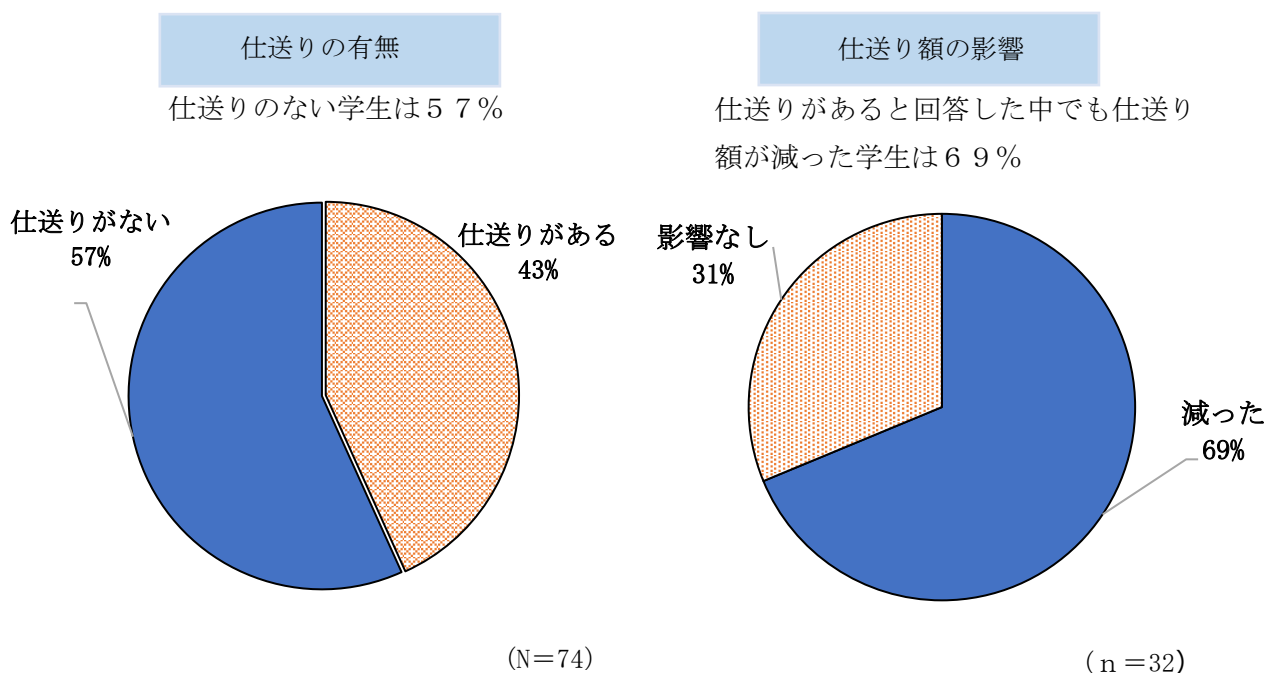
絵手紙などの応援メッセージ



ユニタス日本語学校での食品配布

(4) コロナ禍の影響を受けた大学生に対するアンケート調査の実施

大学生を対象とした本調査で食生活の質問では、食事量を減らしたり、食事に影響があるとの回答が63%に上っています。記述には、「食費を削るのに精一杯です」などの声もありました。将来の希望する職種を変更したと答えた学生も14%となり、これからも続くコロナ禍でその割合も高まっていくのではないかと危惧されます。これから社会を担う大学生が夢や希望を失わないように、継続的に支援を行います。



(5) つながるスマイルプロジェクト（失業者支援）について

新型コロナウイルスの影響により解雇や雇い止めに遭い、生活が困窮する方からの相談が急増しました。そのため、緊急的な食料支援「つながるスマイルプロジェクト」を12月から開始し、これまでに計412世帯を支援しました。加えて各種公的支援制度の情報提供や自治体の福祉課や、民間支援団体につなぐなど、今必要とされる支援を迅速に実施しました。



ドライブスルー方式での食品配布



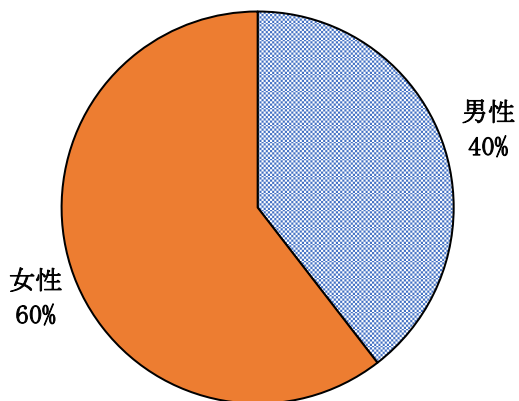
カトリック甲府教会での配布

(6) 第2回つながるスマイルプロジェクトアンケート調査の実施

本調査では10代～30代の申請が全体の6割を占めました。生活が困窮したり、失業や減収した時期は緊急事態宣言発生時が最多になりました。加えてコロナ禍で生活困窮する方々は、食事の回数や食事量を減らして生活しており、健康や心への悪影響が予想されます。

支援世帯 性別

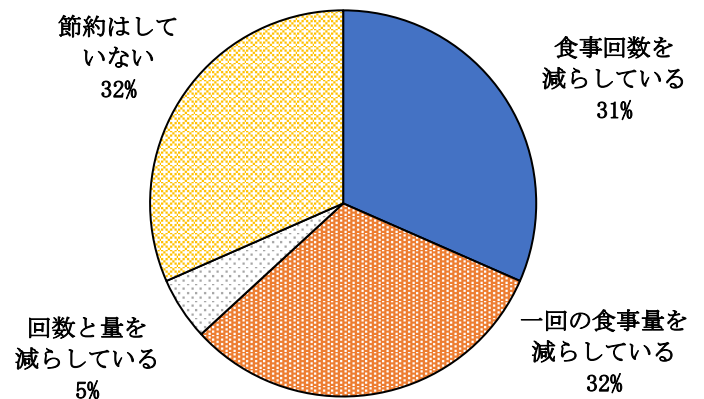
女性が多い



(n = 129)

食事の節約について

回数と量を減らしている68%



(n = 76)

2 寄贈のマッチング

- (1) 臨時休校の延長により、冷凍・冷蔵・生鮮食品等の在庫を抱える学校給食センターとそれを必要とする施設のマッチングを行い、3,134kgを寄贈につなげました。
- (2) 休業要請の影響を受けた観光業や飲食業からの問い合わせで、計1,470kgの食品を受け入れました。

寄贈月	業種・企業名	寄贈理由
4月	ほうとう協会（ほうとう 156kg）	イベント中止
	観光地の美術館（菓子 26kg）	観光客減少
	土産物屋（菓子 400kg）	観光客減少
	観光業者（ドライフルーツ 150kg）	観光客減少
5月	ゴルフ場（景品セット 115kg）	顧客減少
9月～11月	食品卸業者（冷凍食品 623kg）	結婚式中止・延期
2021年2月	牛乳協会（給食用牛乳 2,640kg）	臨時休校

新型コロナウイルス感染症防止の観点から衛生用品の寄贈がありました。

- ① マスク（20,000枚）
- ② 消毒ジェル（1,080本 250kg）
- ③ 除菌消臭液（10箱 100リットル）
- ④ 洗濯用洗剤（2,040本 125kg）
- ⑤ シャンプー（640本 282kg）

II 食のセーフティネット事業（食料支援）

行政や社会福祉協議会と連携し、延べ4,023件、約38トンの食品を宅配しました。また、緊急的に食料が必要な方のために、行政等を通して直接手渡しする緊急食料支援は、87回、約1.3トンの食品を提供しました。

1 定期的に宅配する食料支援

- (1) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ボランティアの受け入れを1日10名以下としました。手洗い・体温管理を徹底するなど感染対策を講じながら活動しました。今後の社会情勢に合わせて随時変更していきます。
- (2) 連携する機関からの申請により、食料支援が必要な方へ1ヶ月に2回（第2・4週）の個人宅配を実施しました。発送した件数は合計4,023箱、重量は合計38,218kg（約38トン）となりました。

- (3) 「ふーちゃん通信」に四季折々の企画を掲載し、孤立感をやわらげ社会との絆が感じられるようにしました。手書きカードの作成を中学・高校のボランティア部に依頼し、次世代の活動参加や社会的課題への関心を高めました。

	件数 (箱)	重量 (kg)
4月	299	2,840
5月	338	3,211
6月	343	3,258
7月	342	3,249
8月	349	3,315
9月	355	3,372
10月	356	3,382
11月	337	3,201
12月	317	3,011
1月	322	3,059
2月	325	3,087
3月	340	3,230
合計	4,023	38,218



箱詰め作業



クリスマスカード

- (4) ひまわり支所を寄贈品の保管と乳幼児応援プロジェクトでの食品・ミルク・おむつの発送作業場所として活用し、よりスムーズな支援を実施しました。

2 緊急食料支援

今年度は、10市町（南アルプス市・中央市・笛吹市・山梨市・都留市・上野原市・昭和町・市川三郷町・身延町・富士川町）で行いました。また、個人宅配とは別に、緊急的に食料支援が必要な場合には、自立相談支援窓口や連携団体を通じて直接手渡しをする緊急食料支援を87回、総重量1,300kg（約1.3トン）実施しました。

3 心の交流と個別ファイルによる情報管理

- (1) ハガキや電話による心の交流を行いました。「ふーちゃん通信」での新型コロナウイルス感染症に関する各種支援制度の説明には課題が残りましたが、レシポを希望する声が返信ハガキで届いたため、宅配した食品を使ってできる簡単な調理法や、季節の行事や健康に関する情報提供を行いました。
- (2) 支援経過を個別ファイルに記録・保管し、必要な場合は自立相談窓口と連携しました。

第115号

ふーちゃん通信
～食料品山梨県民会館にて～

乾パンのとってもおいしい食べ方

ミルク乾パン

1. 耐熱ボウルに牛乳と砂糖を入れ、ふんわりとラップをし、600Wの電子レンジで1分半加熱します。
2. 電子レンジから取り出し、よくかき混ぜます。
3. 乾パンを入れた器に2を注ぎ、乾パンがふやけて柔らかくなったら完成です。

次回の食品発送は **4月23日** になります。
到着は **24日, 25日, 26日** のいずれかになります。

お知らせ
～フードバンクの運営が別～
これまで飯野倉庫から発送してきましたが、次回からは中央市のひまわり支所からの発送となります。なお、皆様には特に支障はございませんのでご安心ください。

ホットケーキでリラックス!
ホットケーキミックスが入っています。ホットケーキを作っておうち時間を充実させましょう!

返信ハガキをお待ちしております!
お困りのことなどがございましたらお気軽にご返信ください。

次回の食品発送は **4月9日** になります。
到着は **10日, 11日, 12日** のいずれかになります。

フードバンク山梨

ふーちゃん通信と手紙

お困りのことやご相談など自由にお書き下さい

いつもありがとうございます。コロナ禍で皆様大変な時にもかわらず、私たちのために活動してくださり感謝しております。今年もコロナのため、仕事も休業状態となっておりますが、前向きに元氣を長くとりたいです。いただいて善意を無駄にせず、ありがとうございます。使わせていただきます。

利用者からのハガキ

Ⅲ 生活困窮者自立支援事業（自立相談支援）

1 生活困窮者への相談支援

(1) 食のセーフティネット事業利用者、中央市・笛吹市・山梨市・都留市・上野原市自立支援相談窓口からの依頼、返信はがきや新規利用者の現状記入欄等から、相談支援が必要な世帯への訪問相談支援を行いました。

相談支援事業実績

	実人員	延べ支援件数	支援内容						
			相談電話・メール	打ち合わせ	支援機関との連携	利用者宅訪問	発手紙・受信の	食料支援	郵便相談（来所相談）
4月	167	949	2	37	0	347	563	0	2065
5月	166	1118	5	21	2	564	526	0	2402
6月	42	526	1	40	2	255	228	0	526
7月	176	1289	0	30	0	643	616	0	2754
8月	191	1384	0	25	4	705	650	0	2959
9月	48	640	60	25	65	250	240	0	1328
10月	49	555	6	44	2	261	242	0	1159
11月	65	686	4	61	1	321	299	0	1437
12月	221	1551	0	43	0	781	727	0	3323
R3年1月	44	539	2	46	0	270	221	0	1122
2月	218	1406	0	36	0	695	675	0	3030
3月	225	883	0	31	0	444	408	0	1991
計	1612	11526	80	439	76	5536	5395	0	24096

2 自立相談支援窓口との連携

(1) 個人情報保護規定のもと、利用者の自立につながるように、自立相談支援窓口と利用できる制度の相談や、食料支援の時期や方法について話し合い、連携して支援しました。

IV 食品ロス削減

コロナ禍における企業・団体からの余剰食品の寄贈と市民からの寄贈が増え、期首在庫量41トンを加え、年間取扱量が過去最多の184トンになりました。次期繰越量は、7トンになりました。

1 食品の収集・配布

(1) 年間150トンの受入れ目標に対し、143トンと過去最高となりました。

寄贈ルート	寄贈量 (kg)
フードドライブ 一般食品	18,091
フードドライブ お米	15,412
ミニフードドライブ 一般食品	7,848
ミニフードドライブ お米	12,529
きずなBOX Aコープ2店舗	1,324
きずなBOX いちやまマート13店舗	8,296
大口企業団体	79,782
合計	143,282

(2) 年間の食品配布量は、177トンでした。コロナ禍緊急食料支援が30トンに達し、配布量も過去最高となりました。

配布ルート	配布量 (kg)
食のセーフティネット事業	36,220
緊急食料支援	3,247
施設配布	63,250
フードバンクこども支援プロジェクト	43,515
コロナ禍緊急食料支援 (災害支援含む)	30,982
その他	627
合計	177,841

(3) パレット単位の大口寄贈受け入れ

- ・食品製造企業からの過剰生産品や、冷凍庫設置による冷凍食品の受入れを行いました。また、県内企業からの新規寄贈がありました。
- ・全国フードバンク推進協議会のマッチングで、延べ63社の企業から、47,088kg (47トン) の寄贈をいただきました。



- (4) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、フードドライブの持ち込みを予約制に変更しました。
- ・職場単位で従業員が取り組めるように、チラシの配布、のぼり・ボックスの貸し出しを行いサポートしました。
 - ・ミニフードドライブでは、新型コロナウイルス感染防止のため、事務所外にて受付・アルコール消毒を行い受け付けました。
 - ・PTAや生徒が主体的に行なう「スクールフードドライブ」では、64校（夏27校、冬37校）の参加がありました。



(5) きずなBOX

2社15店舗での取り組みを継続し9,620kgの寄贈をいただきました。コロナ禍で共助の気持ちが高まったことを受け、例年以上の寄贈量となりました。



(6) パンの寄贈

製パン会社から、10施設への寄贈を2010年から継続し、緊急コロナ支援での手渡しの際にも提供しました。

(7) 日用雑貨の取扱い

パレット単位で洗濯用洗剤・おむつ・マスク等の日用品を受け入れました。

2 倉庫管理

(1) 食品の保管

- ・新型コロナウイルスの影響が長引くことを予想して9月まで常時20トン以上の食品を保管しました。10月以降は必要品に絞り、2021年4月の飯野倉庫移転に備えました。

- ・中央市ひまわり支所においても、常温食品・米・日用品等の保管を行いました。
- ・廃棄量削減のため、パレット・カゴ車単位で3か月ごとの賞味期限食品を保管し、先入先出にて保管期間の可視化・定位置保管を維持しました。

(2) 管理基準

農林水産省「フードバンク活動における食品の取り扱い等に関する手引き」を基準とし、それに沿った管理に努めました。

(3) 整理整頓

- ・飯野倉庫での整理手順を継続し清潔な状態を維持しました。
- ・終了した個人情報のファイルを整理して鍵をかけて有野事務所に保管しました。

(4) 倉庫移転先の検討・確定

飯野倉庫と同程度のスペースがある物件、小笠原倉庫（140坪）を2021年4月から賃貸契約しました。又、駐車場（7台）の確保ができました。



小笠原倉庫 入口



食品搬入後内部

3 施設配布・ヒアリング実施

- (1) 確約書締結施設に対し、書面にてヒアリングを行い、ニーズに合った食品を提供しました。



ヒアリング内容

- ・多くの施設・団体から冷蔵・冷凍品の寄贈を望む声が寄せられた。
- ・500ml×24本の飲料の希望が多く、施設の規模によって1～5箱の需要がある。など。

V 3密を避けてボランティアの参加促進

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月は受入れせず、5月1回、6月3回と状況を見込んで、ボランティア活動日を設けました。1回の受入れ人数を最大10人前後とし、検温・マスク着用・手洗いを徹底しました。

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
活動日数	0	1	3	14	15	9	8	13	12	15	17	17	124
延人数	0	3	57	155	214	77	111	66	109	84	132	119	1,127
延活動時間	0	3	114	323	424	157	125	132	218	168	309	244	2,217

1 企業や行政からのボランティア受け入れ

笛吹市福祉課職員と関係団体から3回のボランティア参加があり、新型コロナウイルス緊急食料支援のための箱詰めを行いました。企業研修としての参加受け入れは自粛しました。

2 フェイスブックでの活動報告

箱詰めやボランティア作業の様子を写真や動画で掲載しました。

VI フードバンクこども支援プロジェクト

長期休暇の子どもの欠食を防止し、健やかな成長をサポートするため「フードバンクこども支援プロジェクト」による食品宅配を夏に2回、冬に1回実施しました。夏・冬合わせて延べ2295世帯（子ども4520人）に34,425kg（34トン）の食料支援を行うとともに、小林製薬株式会社との連携で母子家庭支援の「青い鳥こども支援プロジェクト」を推進しました。また、コロナ禍緊急食料支援を3回追加して支援しました。

1. 夏のフードバンクこども支援プロジェクト

行政機関から98世帯、連携する南アルプス市、笛吹市、中央市、大月市、都留市、山梨市、上野原市、昭和町、身延町、山中湖村の学校から657世帯の申請があり、7月末～8月の間、2回の食料支援を実施しました。また、食品と共にお米券と通信を添えて宅配しました。

2020年 夏 フードバンクこども支援プロジェクト	
支援世帯数	755世帯
18才以下の子どもの人数	1488人
母子世帯数割合	616世帯（全体の82%）
連携学校数	97校
学校からの申請世帯	657世帯（全体の87%）

- ・第1回目の箱詰めは、飯野倉庫にて学生や、企業ボランティアに参加いただき作業を行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため密を避けボランティアは1日10名とし、事前の体温測定、手洗いを徹底しました。
- ・第2回目の箱詰め作業は、第1回目と同様に5日かけて行いました。



食品とお米券



学生ボランティア

2. 冬のフードバンクこども支援プロジェクトについて

785世帯に支援しました。また、子どもたちにクリスマスプレゼントとしてクラウドファンディングで集めて購入したこども券（子ども一人につき1000円分）をお送りしました。

2020年 冬 フードバンクこども支援プロジェクト	
支援世帯数	785世帯
18才以下の子どもの人数	1544人
母子世帯数割合	638世帯（全体の81%）
連携学校数	97校
学校からの申請件数	689世帯（全体の87%）



食品・貯金箱・ギフトカードを発送



こども商品券

3. 新たな自治体との連携

連携のない自治体に「フードバンクこども支援プロジェクト」の実施を呼びかけ、新たに身延町・山中湖村と「子どもの貧困対策連携協定書」を締結しました。そのため連携する自治体は合計で10となりました。

4. 教育機関との連携強化及び推進

教育委員会を通して97校の小中学校と連携しました。来年度は120校との連携を目指します。

5. 楽しい経験の機会創出

新型コロナウイルスの影響により、バーベキューや学習会を実施することはできませんでした。代わりに家で学びを得られるような絵本や、組み立て式の貯金箱を食品と共に発送しました。

6. 利用者交流会の開催

新型コロナウイルス感染症の影響により利用者交流会を実施することはできませんでしたが、積極的にコロナ禍で利用できる制度をチラシでお知らせしたり、電話で相談を受け付ける等しました。

7. 利用者の声（一部抜粋）

- ・いつも支えて頂きありがとうございます。絵葉書とても素敵で心安らぎます。
- ・ありがとうございます。ぼくは、フードバンクがあっとうれしいです。
- ・お手紙（通信）のみんなひとりじゃないんだよという言葉に胸がホッとしました。フードバンク山梨さんに関係する全ての方々に感謝致します。
- ・品物が届いた時、子ども達がとても嬉しそうに荷物を確認しながら「ありがたいね」と笑顔で話してくれます。
- ・コロナ禍で皆が大変な時にもかかわらず優しく手を差し伸べてくださる地域、企業みなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・今後は、ぜひ寄付する側になり、フードバンク山梨の活動を応援させて頂きたいと思います。

VII 乳幼児応援プロジェクト

ミルク・おむつが不足している未就学児のいる世帯に対し「乳幼児応援プロジェクト」を春と秋に実施しました。新型コロナウイルス感染症拡大防止として集合型イベントは見送り、ミルク・おむつ・食品を宅配とドライブスルー方式で延べ255世帯へ配布しました。グーグルフォームでの申請や宅配で遠方の世帯が食品を受け取れるようになったため、申請世帯数は前年比の5倍でした。

1. 春の乳幼児応援プロジェクト

新型コロナウイルス感染拡大に伴い集合型のイベントは行わず、延べ118世帯にミルク、おむつ、食品を宅配しました。

春の乳幼児応援プロジェクト	
実施月	5月・6月（2回）
世帯数	118世帯
子どもの人数	163人
母子家庭数	75世帯（全体の64%）

2. 秋の乳幼児応援プロジェクト

137世帯（宅配89世帯・手渡し48世帯）に支援しました。初めてグーグルフォームを利用し、WEB上で申請を受付けたところ、申請者数が増えました。

秋の乳幼児応援プロジェクト	
実施月	11月
世帯数	137世帯
子どもの人数	340人
母子家庭数	94世帯（68%）



箱詰めの様子



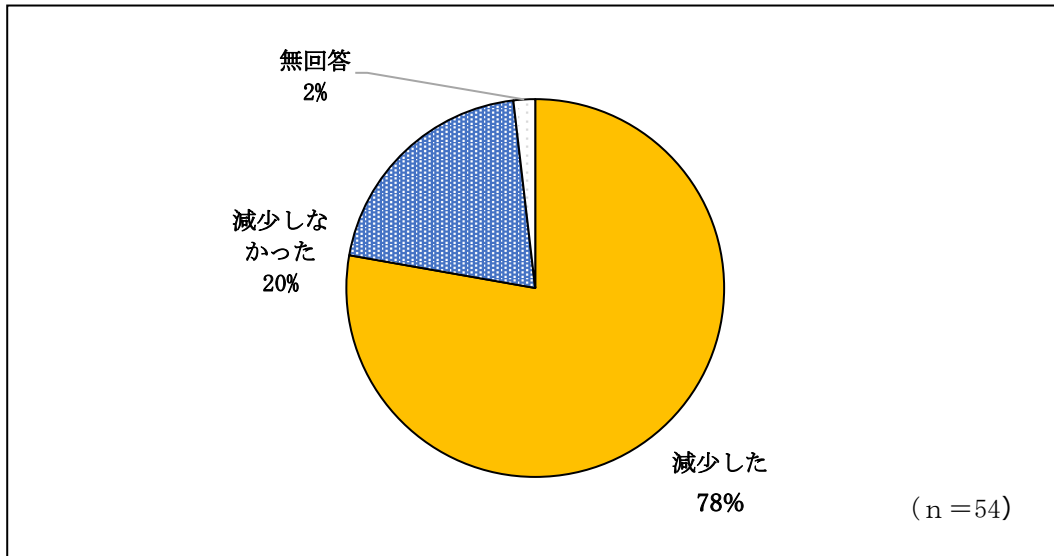
ドライブスルーで手渡し

3. アンケート調査の実施

乳幼児応援プロジェクトを利用した世帯に「生活に困窮する乳幼児を育てる世帯に対するアンケート調査」を実施しました。新型コロナウイルス問題が起きる前と今年4月の月収比較では、「減収した」と答えた世帯が全体の78%でした。また、新型コロナウイルス問題が起きてから、5月22日までの期間で生活に関して経験したことで最も多かったのは、「子どもがストレスを抱えていると感じた」で80%、次いで「子どもの遊び場がなかった」が78%と深刻な状態であることが分かりました。

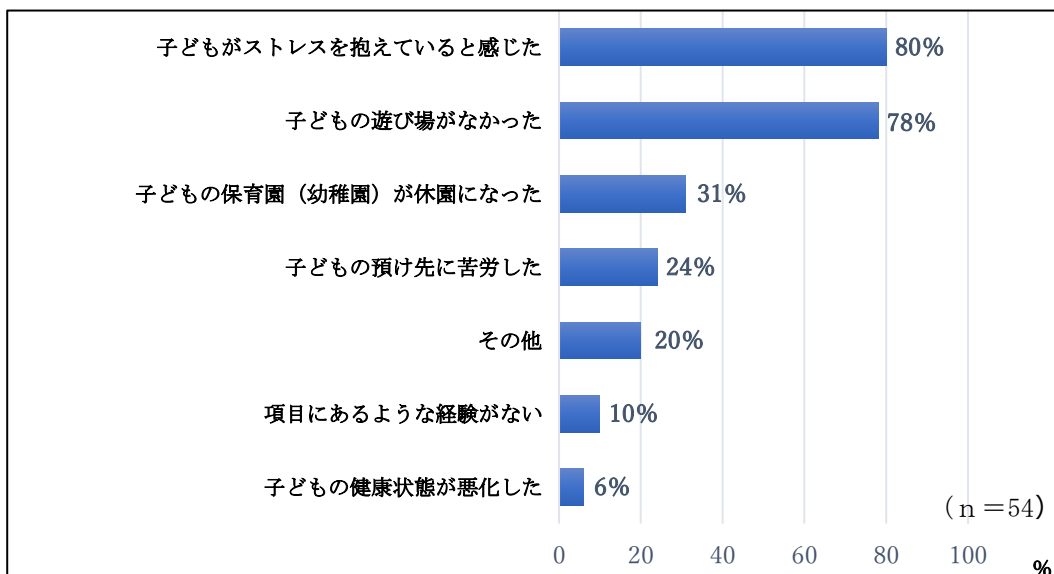
今年の4月の世帯全体の月収が減少したか

78%が減少したと回答



生活に関して経験したこと

80%が子どもがストレスを抱えていると感じた



利用者の声

- ・精神的に本当に救われました。今までなら、オムツ等のストックもできていたのですが、それもできずぎりぎりの状態での生活。オムツや食料を送ってくださり、生きる！って前向きにもなれました。
- ・休校、休園になり、送っていただけたとき毎回涙が出ます。私たちのことを気にしてくれている方がいる。支援してくれる方がいると「1人ではないんだよ」って言ってもらえてるように私は思っています。

4. 医療、歯科、法律相談会の実施

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い集合型のイベントすべて中止にしました。食品をお送りする際に、歯科医師会から寄贈された歯磨きや、法律相談の無料電話相談会のチラシを同封するなどの情報提供に努めました。

5. キャラバンの実施

甲府を拠点とする「こどもサポートやまなし」との連携で、利用者に食品・ミルク・おむつをドライブスルー方式で手渡ししました。

VIII 学習支援「えんぴつひろば」

中央市で学習支援を実施し、貧困世帯の子どもたちが安心して学び、楽しく過ごせる場を提供しました。保護者と連絡を取り合い、子どもの支援に生かしました。新型コロナウイルス感染症での休校に伴い4、5月は中止にしましたが、その後は感染症防止策を徹底して実施しました。福祉課からの委託を受け年間39回開催し、子ども延べ415人、ボランティア延べ233人が参加しました。

1 学習支援教室「えんぴつひろば」

- (1) 中央市で毎週土曜日午前に学習支援を行いました。南アルプス市での開催は今年度は見送りました。中央市在住で①就学援助受給者、②生活保護、準要保護世帯、③その他支援が必要と思われる世帯の小学3年生から中学3年生までの子どもを支援しました。受験生一名は希望の公立高校に入学することができました。外国籍児童・生徒には日本語の読み書きに親しむような指導も行いました。
- (2) ボランティア講師は一般の方を中心に、大学生、高校生と幅広い方々に協力をいただきました。
- (3) 荷物の搬入出・パンの受け取り、通訳等のボランティアにご協力いただきました。
- (4) 個人対応型支援を実践し、保護者と相談しながら、学力強化や生活支援を行いました。また、必要に応じ食品の支援や発達に問題がある子どもの外部支援先の紹介も行いました。
- (5) 子どもへのヒアリングを行い、生活状況・進路や悩み事等の話を聞き、ボランティアのマッチングや指導方法を工夫しました。
- (6) アンケートは簡易版で実施し、前年の結果と比較して生活状況と自己肯定感の改善を確認しました。振り返りプリントは受諾者のみに行いました。
- (7) 例年行っているボランティアの交流・研修の場を設けることができず、年度末に1回、意見交換会を開催しました。担当する子どもの情報共有や子どもへの接し方について、意見を出し合いました。



- (8) キャリア教育の提供は実施できませんでしたが、個別に将来への希望の聞き取りを行い、次年度以降の企画の参考としました。

2 フードバンクキッチン開催

- (1) 新型コロナウイルス感染症予防のため、開催を見合わせました。
(2) 昼食用に簡単に食べられる食品を用意し、製パン会社からのパン、個人からの継続的な果物のご寄付とともにお土産として渡しました。

IX 寄付活動・広報・助成金等の申請

1 寄付管理システムの活用

寄付管理システムを滞りなく運用しました。また、データ一括投入の方法を学び活用を始めました。

2 個人・企業への寄付・入会・遺贈呼びかけの強化

- (1) 活動資金への寄付を新規企業や個人に幅広く呼びかけました。今年度は、新型コロナウイルスの影響で支援数が増加して新聞などの露出が増加したことに加え、国からの特別定額給付金の給付により、寄付者が増加しました。新たな寄付の仕組みとしては、活動のビデオを作成し、フードドライブキックオフイベントの際に上映会を実施。またフェイスブックやホームページ上で公開しました。

正会員	個人	41
	法人	13
賛助会員	個人	51
	法人	32
特別法人会員		69

- (2) 遺贈・相続財産寄付推進の取り組みには課題が残りました。
(3) 乳幼児応援プロジェクト・冬のフードバンク子ども支援プロジェクトにおいてクラウドファンディングに取り組み、延べ181名から2,185,500円の寄付が寄せられました。

3 広報活動による認知度向上

- (1) 多様なツールを活用し、情報発信を強めました。
- ・寄付を呼びかける専用のWebページ(ランディングページ)を運用して1年間で1.57万回のクリックと1.68万回の閲覧がありました。検索キーワード数上位3位は①「SDGs 国連」で9,000回 ②「子ども 貧困」で2,265回 ③「格差 貧困」で550回となりました。
 - ・法人会員向けのメールマガジンを実施し、活動について発信しました。
 - ・ホームページやフェイスブック等多様なSNSを活用し情報発信に努めました。

- (2) 事業やイベントの開催について積極的にニュースリリースを行いました。テレビ・ラジオ53回、新聞80回、雑誌・広報誌6回の報道・掲載がありました。コロナ禍での活動がおよそ2倍になり、発信するニュースが増えました。

4. 助成金・補助金の申請

多くの世帯に食料支援を実施するため、積極的に申請を行いました。

- (1) 助成金：独立行政法人福祉医療機構 地域連携活動支援事業助成金
赤い羽根 臨時休校中の子どもと家族を支えよう緊急支援活動
赤い羽根 新型コロナ感染下の福祉活動応援全国キャンペーン
第1回フードバンク活動等応援助成
公益財団法人東京コミュニティ財団
新型コロナウイルス感染症拡大防止活動基金
公益財団法人パブリックリソース財団 高山弘子基金
公益財団法人パブリックリソース財団 匿名基金A
一般財団法人山梨福祉財団 特定非営利活動事業費

- (2) 補助金：やまなし子どもの貧困対策広域的活動拠点整備事業費補助金
山梨県フードドライブ促進強化学業費補助金
山梨市子ども支援プロジェクト事業費補助金
大月市子ども支援プロジェクト補助金

5. 講演会・視察の強化

- (1) 県内連携団体等へ講演会実施を呼びかけるチラシを作成しましたが、コロナ禍で実施できませんでした。
- (2) 企業・行政へのボランティア呼びかけは来年度の状況を見込み実施します。
- (3) オンラインによる講演会が12回、視察・研修受け入れは数件ありました。

6. 募金箱の普及

各地に設置された募金箱の回収は、効率の上からも難しいことが分かり、増設することができませんでした。既存の店舗にはお礼に伺い、近隣の店舗には継続設置のお願いをしました。

X 組織運営強化

1 職員が働きやすい環境づくり

- (1) 就業規則改訂を見直し、職員が働きやすい環境づくりを進めました。
- (2) 業務管理システムを改善し、仕事の精度を高めました。
- (3) 職員の産前産後・育児休業取得を実施しました
- (4) 職員の産休・育休取得や退職に伴い、人材の募集を積極的に行いました。

2. 人材育成の取り組み

- (1) 会議のやり方などの内部研修を実施したものの、定期的な実施には課題が残りました。
- (2) 今年度はコロナ禍のため、全てオンラインでの研修となりました。学習支援事に関する外部研修会に職員3名が延べ9回参加しました。

3. 人事評価制度の充実

昨年度実施した人事評価の内容を精査し、使いやすくしました。

4. 理事会運営の充実

- ・検討事項について活発な意見交換を行い、活動や運営に反映しました。
- ・潤滑な運営の為に、わかりやすく丁寧な資料作りを行いました。

XI アンケート調査及び自治体への提案

1. 生活困窮世帯の実態把握をするためのアンケート調査の実施

利用者へのアンケート調査（下記）を実施しました。コロナ禍生活状況の子どもの貧困の実態を可視化し、社会に発信するよう努めました。調査後には利用者への支援につなげました。

2020年度アンケート実施実績

実施月	アンケート調査
3月	新型コロナウイルス感染拡大防止のための休校を受け、緊急食料支援を実施した世帯へのアンケート調査
5月	生活に困窮する乳幼児を育てる世帯に対するアンケート調査
11月	コロナ禍の影響を受けた大学生に対するアンケート調査報告書
2021年2月	第2回つながるスマイルプロジェクトアンケート調査報告書

※内容は活動報告書・フードバンク山梨HPに掲載

2. 県内自治体への提案

県内全域でフードバンクこども支援プロジェクトの実施をめざし、未実施自治体の市町村長宛てに手紙と返信用回答票を送付しました。今年度は身延町と山中湖村と連携協定書を締結し、小中学校97校と連携した支援が可能になりました。